

観光社会資本の事例

テーマ	自然と歴史が共存し・誰もが訪れて楽しく・交流できる島	
【施設の状況写真】		
		
<p>旧植物園をリニューアルし、園内の広場や歩道等を再整備しました。</p>	<p>民間による灯台の整備と併せた協調事業として、整備が行われました。</p>	
【施設の利用写真】		
		
<p>亜熱帯植物を基調とした植物園で、現在はサムエル・コッキング苑として、多くの観光客が訪れます。</p>	<p>湘南海岸を望む高台は、写真スポットとして人気があります。</p>	
【観光資源としての利用状況】		
整備を行った結果、多くの観光客に利用されています。		
2001年度(平成13年度)	144,115人(江の島植物園)	
2002年度(平成14年度)	リニューアル工事	
2003年度(平成15年度)	502,927人(江の島サムエル・コッキング苑に施設名変更)	
2004年度(平成16年度)	430,138人	

テーマ	自然と歴史が共存し・誰もが訪れて楽しく・交流できる島
【社会資本の基礎データ】 名称 江の島地区 所在地 神奈川県藤沢市 事業名 まちづくり総合支援事業 事業主体 藤沢市 事業期間 平成14年～15年	
【社会資本の役割・効果】 <ul style="list-style-type: none"> 湘南海岸に浮かぶ江の島は、藤沢市民にとってシンボルであると同時に、首都圏における「自然と歴史」を兼ね備えた身近な海洋スポットとして、また、江の島島頂部においては、亜熱帯植物を基調とした植物園が開設されていましたが、隣接する江の島灯台の老朽化が顕著となっていることから、灯台建て替えに併せ、設置者である民間企業と植物園管理者である行政との協調事業として島頂部整備を行い、「自然と歴史が共存し・誰もが訪れて楽しく・交流できる島」の実現を図りました。 広場(植物園等)の整備、広場内に藤沢市と五姉妹都市(米国マイアミビーチ・中国昆明・カナダウィンザー・韓国保寧・松本市)に係わるストリートファニチャーモニュメント等を整備を行いました。 	
【位置図】 	
【関連ホームページ】 (社) 藤沢市観光協会 http://www.cityfujisawa.ne.jp/~fkanko/	